



さすがに有名ルートと有名沢

北アルプス 折立～新川・ヤクシ谷～太郎平小屋 ～高天原～赤木沢

渡辺

【日時】2008年8月2日～5日

【メンバ】田辺(利)(L)、渡辺

東京からだとも峰湖・折立までは遠い。朝、準備を終えて出発したのが10:00近くとなった。登山道と真川の間を通っている林道に行く。地図ではそのまま新川の右岸沿いに続くはずの林道を、暫く進んでいく予定だった。が、橋を渡って左岸沿いに延びている。右岸沿いの林道はなくなったのか？左岸をたどって行くのが正しいのかどうかかわからず、予定を変更して橋を渡ったところで入渓する。

真川は単調な川原が続く。釣師2名パーティと遭遇する。彼らが設置したのであろうと思われるテント場を過ぎ、川原歩きを1時間30分ほどでハゲ谷、さらに1時間ほどでヤクシ谷と出会う。

ヤクシ谷に入るとすぐに、まだ充分立派な橋がかかっており、その下を通過する。右岸の林道が途中どうなっているかわからないが、橋だけは残っているようである。

それまでの平坦な川原歩きから、階段状に岩を踏みつつ高度を上げていく。苔むした岩が続く、奥秩父あたりを思わせる箇所もある。顔の周りを舞うブヨが多く、うるさい。

5m、10mの2段の滝が現れる。下段の5mは右から問題なく登れるが、上段の10mは、直登は無理なので右のルンゼ状を巻く。岸壁を避けるように大きく右へ巻き、その岸壁が途切れたところで木をつかみながら上へ、そして落ち口へ回り込む。滝の上はナメになっている。

すぐにまた直登不能な滝が現れ、これも右から2段になっている滝を同時に巻く。その後の2時間30分ほどは、ひたすら高度を上げていくだけ。かなり疲労感を覚えたころ、藪に入りかけたが、少しコースを変えると草原とお花畑の中を詰め上がる。

登山道を越えて、反対側の沢に下りる予定だったが、時間切れと判断し、太郎小屋から薬師峠キャンプ場へ向かい幕とする。

8月3日

キャンプ場からそのまま薬師沢右俣を下る。難なく登山道に合流し、本日の行程はそのまま高天原まで登山道歩きである。

時折出現する湿原と、北アルプスの眺望を楽しみながらのんびりと歩くうちに、薬師沢小屋に到着。22年前にこの小屋を経由して雲ノ平へ向かったことを思い出す。今回は黒部川沿いに大東新道へ向かう。登山道といっても川に沿っての川原歩きである。A沢を過ぎると瀨の突破。といっても一般道であり、右岸に設置された鎖と梯子を使う。我々は沢靴で歩いているが、底の固い登山靴で歩く登山者には通りづらいのではないかと気になる。

B沢からは本格的な登山道となり、高天原峠まではひたすら急登を登るだけ。峠でほっとした後には下り、湿原のお花畑を楽しみながら高天原山荘着。

入浴準備をして、1Kmほどの歩きで露天風呂へ。湯加減もよく気持ちよく汗を流す

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>

が、本日もかなり疲労感を覚えて高天原山へ戻る。



極端に朝の早い小屋の登山客の声と、顔の周りを飛び交う蚊の羽音が気になり目を覚ます。夜中にずっと雨が降っていたようだ。朝起きた時にはやんでいたが、またすぐにも降出しそうだ。午後にはやんでくるとの予報に期待をする。

朝食を終え出立するときには、ポツポツ落ちている程度。昨日下った高天原峠までの道を、今度は逆に登り返す。登るうちに雨脚が強くなってきた。高天原峠から本日はさらに登りにかかる。強くなる雨の中の登りはつらい。

スイス庭園を通過中も、ガスに包まれ景観はない。ピークを越え、雲ノ平山荘に着くまでは降ったりやんだりを繰り返していた。山荘の人に今後の予報を聞いても「一日中こんな感じで降り続く」だの、「名古屋放送の予報だから」だの、「前線は通過したが寒気がまだ覆っている」だので結局よくわからない。まだ降り続けているので、祖父沢下降から赤木沢を目指すのはやめて、とりあえず薬師沢小屋を目指す。

相変わらず雨は降り続け、せっかく雲ノ平に来たのに、ガスで視界も悪い。薬師沢小屋に向かう最中、反対に薬師沢小屋から雲ノ平への急登を登ってくる登山客は多い。

薬師沢小屋に着くと、空は心持明るくなったようだ。と思わせて、また雨が落ちてくる。どうするかとぐずぐずしていたが、「せめて、出合まで行ってそこで天気が悪ければ引き返そう」と決めて、雨がやんでいる隙に赤木沢に向けて出発する。

奥の廊下遡行中に、また降り始めて気持ちも萎える。奥の廊下は、激流を避けて巻いたのが1箇所あるだけで、特に難所はない。赤木沢出合は、右の壁をへつった後、小さな滝を越える。さすが有名沢。いきなり、ナメとその先のナメ滝が視界に入ってきて歓声上がる。そのナメ滝を越えるとまたナメが出てくる。その後も、またか、またかと思うほどナメとナメ滝が連続する。左から巻く箇所は一度あるが、概ね手を付きながら登れる階段状の滝である。いつしか空も晴れ間が出てきて、気持ちも晴れやかにさせる。



ゴルジュを右に回ると、上から轟音を上げて水を落とす大滝が出現する。左の草付きから巻く。有名沢なので楽に歩ける踏み跡が残っているだろう、と軽い気持ちで向かうが、微妙にコースを間違えたか、草だけを掴みながらの泥壁状態にかなり緊張する。

二股は、左へも行ってみたいくなるナメが見えるが、右のコースをとる。源頭も小さなナメとナメ滝が続く。顔にまわり付くブヨに閉口するが、最後の詰めは草原と花畑が広々と続く。

登山道からは、赤木岳、北の俣岳を経て太郎平小屋に戻る。天気もよくしばしのんびり過ごすうちに、高天原小屋で出会った登山客と再会。彼らが小屋で生ビールを購入したのを見て、こちらも我慢できずに1杯購入して乾杯する。

折立までの2時間30分を最後の頑張りで下山した。

【地形図】

有峰湖、薬師岳、三俣蓮華岳



